公益財団法人日本文化興隆財団

令和7年度 事業報告書

（令和7年7月～令和8年6月）



公益財団法人日本文化興隆財団

当財団の事業体系

公益目的事業1 ― 日本の伝統精神と文化を伝える事業
- 1 日本文化の興隆事業
  - (1) 田んぼ学校
  - (2) 日本文化セミナー
  - (3) 鎮守の森保全活動
- 2 季刊誌『皇室』の頒布普及事業
- 3 検定事業
  - (1)神道文化検定（神社検定）の実施
  - (2) セミナーの開催
- 4 皇室敬慕に関する事業 ― 皇居参賀奉祝事業（皇居一般参賀）

公益目的事業２ ― 国旗小旗の無償頒布を通した国旗啓発事業

公益目的事業３ ― 国民の健全育成事業
- (1) 硫黄島訪島事業
- (2) 建国メモリアル・ザ・マーチングコンテスト後援

収益事業１ ― 物品頒布事業

収益事業２ ― テナント及び貸会議室の施設運営

令和7年度　公益目的事業１　　日本の伝統精神と文化を伝える事業

1 日本文化の興隆事業

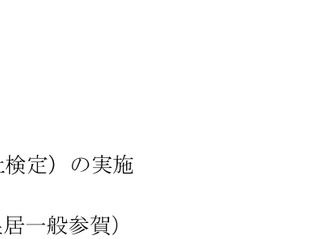
（1）田んぼ学校　主催：日本文化興隆財団　協力：古宮神社・國學院大學

日本人の精神文化の根幹をなす稲作と神道との深い関わりについて、実際の稲作体験を通じて理解を深めることを目的として、令和7年9月に第17回「田んぼ学校」稲刈り編を、令和8年6月に第18回「田んぼ学校」田植え編をそれぞれ開催した。本事業では、田植え、稲刈りをはじめとする一連の農作業を体験することにより、我が国において稲作が育んできた生活文化、共同体意識及び信仰の在り方について学ぶ機会を提供している。

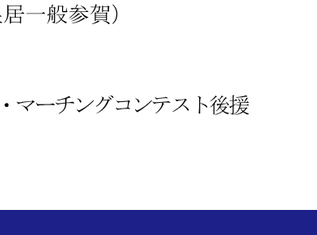
また、収穫した稲穂は、毎年、神宮の神嘗祭に際して懸税として奉納しており、参加者が稲作と神道との深い結び付きを実感し、日本文化に対する理解と関心を一層深めることができるよう努めた。

併せて、「田んぼ学校」の理念を広く社会に普及し、稲作を通じた日本文化への理解を促進するため、自宅において稲の生育から収穫までを体験することのできる「おうちで田んぼ学校（稲栽培セット）」の頒布を継続して実施した。

□第17回（稲刈り編）
日　時：令和7年9月28日(日)
参加者：一般29名・國學院大學24名・スタッフ31名　計84名
内　容：稲刈り体験　　（稲刈り・はさかけ・コンバインでの稲刈り見学）
　　お米と祭りの話（茂木貞純宮司）
　　脱穀・籾摺り・精米体験（佐久間事務局長）
　　豊作感謝祭



□第18回（田植え編）
日　時：令和8年6月14日(日)
参加者：一般44名・國學院大學27名・スタッフ44名　計115名
内　容：豊作祈願祭
　　田んぼの話　　（佐久間事務局長）
　　お米と祭りの話（茂木貞純宮司）
　　ポン菓子づくり見学と体験
　　田植え体験（小人対象に白丁・早乙女衣装着装で体験）





□バケツで稲作体験ができる稲作栽培体験セット

収穫まで稲の成長記録をX(SNS)で投稿し、参加者で米作りの情報共有を通しながら稲作を学ぶ場を提供した。収穫した稲穂は、事務局で取りまとめ、神宮の神嘗祭に懸税として奉納した。
参加者：10名
参加費：3,850円 税送料込

セット内容
○種もみ（虹のきらめき）
○肥料
○土（黒土・赤玉土・鹿沼土を適量ブレンド）
○バケツ（10L）
○おうちで田んぼ学校説明書
○稲づくりマニュアル
○絵本『いただきます』

令和7年度　公益目的事業１　　日本の伝統精神と文化を伝える事業

（2）日本文化セミナー

神道文化をはじめとする我が国固有の精神文化を継承し、その一層の振興を図るため、日本の歴史、伝統及び文化に関する講座を開催した。

◇「はじめての神社史」講座の開催

神社検定公式テキスト『神社のいろは続』を活用し、古代から近現代に至る神社の歴史を体系的かつ通史的に学ぶ連続講座「はじめての神社史」を、当財団評議員の加藤健司氏を講師として、令和7年9月から令和8年6月まで、全10回にわたり開催した。本講座では、神社制度の変遷、祭祀の展開並びに神社と国家、地域社会及び人々の暮らしとの関わりについて理解を深める機会を提供した。これにより、神道文化に関する知識の普及と理解の促進を図るとともに、日本人の精神文化を次代へ継承し、その振興に資することを目的として実施した。

□講座内容「はじめての神社史」
講　師：加藤健司氏（当財団評議員）
参加者：各約30名・総受講者数246名　/　動画受講者数250名
会　場：日本文化興隆財団会議室

第01回　縄文時代、弥生時代、古墳時代
第02回　律令国家時代の形成期と奈良時代（前編）
第03回　律令国家時代の形成期と奈良時代（後編）
第04回　平安時代中ごろ（前編）
第05回　平安時代中ごろ（後編）
第06回　中世−鎌倉から室町時代−（前編）
第07回　中世−鎌倉から室町時代−（後編）
第08回　近世−江戸時代−（前編）
第09回　近世−江戸時代−（後編）
第10回　近現代

（3）鎮守の森保全活動

神社を取り巻く鎮守の森は、我が国の歴史、文化及び信仰と深く結び付いた貴重な自然環境であり、生物多様性の保全、水源涵養、国土保全等、極めて重要な公益的機能を有している。本事業では、鎮守の森の保全及び再生に関する諸活動を通じて、自然と共生してきた日本人の伝統的な価値観及び精神文化への理解を深めるとともに、環境保全意識の醸成と、その理念及び実践を次世代へ継承することを目的として、継続的な活動を実施した。

◇植樹祭開催地の現状調査の実施

東日本大震災復興支援事業として、被災地を中心とする福島県、宮城県の計11か所の神社において実施した鎮守の森再生事業について、令和8年4月、植樹地の生育状況の調査及び経過観察を継続して実施し、鹿の食害以外の10か所の植樹地は全て樹高10mを超える社叢となり順調に生育していることを確認している。本調査は、復興支援事業の成果を継続的に検証するとともに、震災の教訓を次世代へ継承することを目的とするもので、植樹した樹木の生育状況及び周辺環境の変化を記録し、その成果を今後の森づくり活動及び環境教育活動に活用するため、基礎資料の蓄積に努めている。

◇「第20回 筑波山神社水源の森づくり」の開催

鎮守の森の保全及び再生を提唱した植物生態学者・故宮脇昭博士の潜在自然植生理論に基づく森づくりの実践を目的に、令和8年5月、筑波山神社の鎮守の森において植樹活動を実施し、220名のボランティアが参加して、約600本の常緑広葉樹を植樹した。

筑波山神社の社叢の一部は、戦後に植林された人工林が多く、国内林業衰退により、長年放置されてきた状況から、宮脇昭氏の潜在自然植生の森づくりによる、筑波山本来の自然に近い広葉樹林化に誘導する長期にわたる森づくりを継続している。本事業は、宮脇博士が生涯を通じて提唱された「その土地本来の樹種による森づくり」の理念を継承し、災害に強く、多様な生態系を育む鎮守の森の再生及び保全を推進し、参加者が植樹活動を通じて、鎮守の森の公益的機能及び自然との共生を学ぶ機会となるべく事業内容の充実に努めた。

日　時：令和8年5月17日(日)　午前8時〜12時
場　所：筑波山神社鎮守の森（女体山の一部）
指　導：藤原一絵（横浜国立大学名誉教授）ほか
共　催：日本文化興隆財団・NPO地球の緑を育てる会・筑波山神社
協　賛：伊藤園
後　援：茨城森林管理署
後　援：明るい社会づくり筑浦協議会・土浦ライオンズクラブほか
参加費：無料（おむすび・お茶付）
参加者：220名+スタッフ50名



２季刊誌『皇室』の頒布普及事業

季刊誌 皇室

一般財団法人日本宝くじ協会の助成

季刊誌『皇室』の刊行及び頒布は、平成30年に当財団が公益財団法人として認定を受けた際、出版を通じた公益目的事業として位置付けられた当財団の中核をなす公益事業である。

本事業では、季刊誌『皇室』の継続的な刊行及び頒布を通じて、皇室に関する正確な知識と理解の普及を図るとともに、皇室文化を通じて我が国の歴史、伝統及び精神文化を広く紹介し、その継承と普及啓発に資することを目的として、各種事業を実施した。

(1) 季刊誌『皇室』の刊行

季刊誌『皇室』第107号から第110号までの4号を刊行し、不特定多数の一般読者に向けて広く頒布した。誌面においては、皇室に関する歴史、文化、祭祀、御活動及び伝統行事等を幅広く取り上げ、皇室文化を通じて日本文化への理解を深めることのできる情報を提供した。また、正確かつ良質な記事の発信に努め、我が国の歴史と文化を次世代へ継承するための一助となるよう、誌面内容の充実を図つた。



第 110 号
大特集　東日本大震災と皇室
◇悠仁親王殿下　初めての新年行事
◇上皇・上皇后両陛下のご近況
◇斎宮と斎王　幻の都を訪ねて
◇尼門跡寺院の美と文化
　圓照寺〔山村御所〕山懐に抱かれた聖域



第 109 号
敬宮殿下はじめての外国公式ご訪問
◇「豊かな海づくり大会」の会場にて
◇皇后陛下 お誕生日に際してのご感想より
◇上皇・上皇后両陛下のご近況
◇神宮の別宮　天照大御神の遙宮へ



第 108 号
悠仁親王殿下　成年式
◇天皇・皇后両陛下、敬宮殿下
　長崎県ご訪問
◇天皇・皇后両陛下　モンゴルご訪問
◇神宮式年遷宮「御船代祭」
◇尼門跡寺院の美と文化　瑞龍寺



第 107 号
天皇・皇后両陛下 沖縄県・広島県ご訪問
◇敬宮殿下　石川県ご訪問
◇佳子内親王殿下 ブラジルご訪問
◇神宮式年遷宮　御樋代木を伐り出す
◇対談：念法眞教・桶屋慤主
　神社本庁・田中総長

(2) 情報発信機能の充実

当財団ホームページ「ぶんぶくの森」の掲載内容の充実を図るとともに、広報体制の強化に努めた。また、デジタル媒体を活用した情報発信を推進し、皇室文化及び日本文化に関する正確かつ有益な情報に、広く国民が接することのできる環境の整備を進めた。

なにが出てくる？ にっぽんの玉手箱 ぶんぶくの森 The Forest of Happiness

ホームページ「ぶんぶくの森」でWEBならではの「皇室」の情報を満載中
https://www.nihonbunka.or.jp/

(3) 編集・頒布体制の充実

季刊誌としての品位と公共性を保持しつつ、誌面内容の更なる充実を図るとともに、編集体制及び頒布体制の強化に努めた。併せて、企画、取材、編集、刊行及び頒布に至る一連の業務を適切に遂行し、安定的かつ継続的な刊行事業の推進を図つた。

発行人：佐久間宏和（当財団事務局長）
編集人：伊豆野誠（季刊誌『皇室』編集長）
編　集：岡田尚子・中尾千穂（季刊誌『皇室』編集スタッフ）
写　真：産経新聞写真報道局・宮内庁・日本雑誌協会など
発　売：株式会社扶桑社（書店販売のみ委託継続）

(4) 公共機関等への寄贈事業

一般財団法人日本宝くじ協会の助成を受け、全国の公立図書館3,100施設及び地方自治体議会図書館400施設の計3,500施設に対し、季刊誌『皇室』を寄贈する事業を継続して実施した。

本事業を通じて、居住地域や世代を問わず、広く国民が皇室文化及び日本文化に触れ、学ぶことのできる機会を継続的に提供した。これにより、公共的な学習環境の充実を図るとともに、皇室文化及び日本文化の全国的な普及啓発に努めた。

３検定事業

(1) 第14回神道文化検定（神社検定）の実施
会場受検・オンライン受検とも継続開催　累計受検者数は5万人を突破

神道文化検定（神社検定）は、当財団の設立趣旨である日本文化及び神道文化の普及啓発を具現化する中核的な公益事業として、神社及び神道に関する知識を広く普及するとともに、我が国の歴史、伝統及び精神文化に対する理解を深めることを目的として実施している。

第14回の受検申込者数は3,467名となり、前回を591名上回った。2年連続して申込者数が増加し、この2年間で計1,044名の増加となった。受検形態別では、会場受検者が1,180名、オンライン受検者が2,287名となり、全体の約66%がオンライン受検を選択した。また、第1回からの累計受検申込者数は51,180名に達した。

今回は、より多くの方々に受検の機会を提供するため、新たに弐級にオンライン受検方式を導入した。さらに、新規受検者が全体の約70%を占めるなど、これまで神社や神道について体系的に学ぶ機会のなかった層にも受検の裾野が広がり、本検定に対する社会的認知の広がりを示す結果となった。併せて、不特定多数の国民に対し、神道文化及び日本文化について体系的に学習する機会を提供する公益事業として、本検定が着実に定着しつつあることを示す成果となった。

本検定の学習教材として、これまでに計15冊の公式テキストを刊行しており、その累計発行部数は284,000冊に達している。また、電子版についても累計17,770冊が利用されるなど、検定の実施にとどまらず、研修会などにも神社及び神道、日本文化について広く学ぶための教材として活用されるなど、我が国の歴史、伝統及び精神文化を次世代へ継承するための普及啓発に努めた。



検定日時

令和8年6月28日(日)

初級	11時00分～11時45分	オンライン	オンライン受検で実施
参級	13時00分～14時20分 ※オンラインは13時10分～14時20分	オンライン 会場	オンライン・会場受検で実施
弐級	15時20分～17時00分 ※オンラインは15時30分～17時00分	オンライン 会場	オンライン・会場受検で実施
壱級	15時20分～17時00分	会場	会場受検で実施

※各級全国一斉に同日同時刻で開催　※披見不可

受検会場
- 全国主要都市で開催

受検資格
- インターネット環境を有する方（オンライン受検者のみ）
- 初級と参級・参級と弐級は併願可能。
- 壱級は弐級合格者のみ受検可能。

出題形式と出題内容
- 初級／3択50問　●参級、弐級、壱級／4択100問

初級　神社を知ろう！
- 『マンガ版 神社のいろは』から約100%出題

参級（3級）　神社の基礎と神話
- 『① 神社のいろは』から約70%出題
- 『マンガならわかる！『古事記』』から約30%出題

弐級（2級）　神社の歴史
- 『③ 神社のいろは 続』から約70%出題
- 『⑩ 神話のおへそ『日本書紀』編』から約20%出題
- 季刊誌『皇室』107号～110号から約10%出題

壱級（1級）　指定テキストから総合的に出題
- 『⑤ 神社のいろは要語集 祭祀編』から約50%出題
- 『⑩ 神話のおへそ『日本書紀』編』から約10%出題
- 『⑪ 伊勢神宮と、遷宮の「かたち」』から約30%出題
- 季刊誌『皇室』107号～110号から約10%出題

合格基準
- 初級は50問中35問以上の正解
- 参級、弐級、壱級は100問中70問以上の正解

※参級に限り70点以上の方が全体の70%未満の場合は、全体受検者の上位70%を合格認定

受検料

初級	3,800円(税込)
参級(3級)	5,900円(税込)
弐級(2級)	7,000円(税込)
壱級(1級)	8,000円(税込)
初級・参級(初級・3級) 併願割引	8,700円(税込)
参級・弐級(3級・2級) 併願割引	11,800円(税込)
リピーター割引	
再挑戦割引 (参級・弐級・壱級 不合格者対象)	

申込期間　令和7年12月23日(火)～令和8年5月28日(木)

公式テキスト適合表　●：問題出典テキスト

タイトル	初級	参級	弐級	壱級
神社のいろは	—	●	—	—
神話のおへそ	—	—	—	—
神社のいろは 続	—	—	●	—
遷宮のつぼ	—	—	—	—
神社のいろは要語集 宗教編	—	—	—	—
日本の祭り	—	—	—	—
神社のいろは要語集 祭祀編	—	—	—	●
万葉集と神様	—	—	—	—
神話のおへそ『古語拾遺』編	—	—	—	—
神話のおへそ『日本書紀』編	—	—	●	●
神社のいろは特別編 伊勢神宮と、遷宮の「かたち」	—	—	—	●
マンガならわかる!『日本書紀』	—	—	—	—
マンガ版 神社のいろは	●	—	—	—
マンガならわかる!『古事記』	—	●	—	—
令和のご大礼 完全版	—	—	—	—
皇室 107号	—	—	●	●
皇室 108号	—	—	●	●
皇室 109号　令和8年1月25日発売	—	—	●	●
皇室 110号　令和8年4月25日発売	—	—	●	●

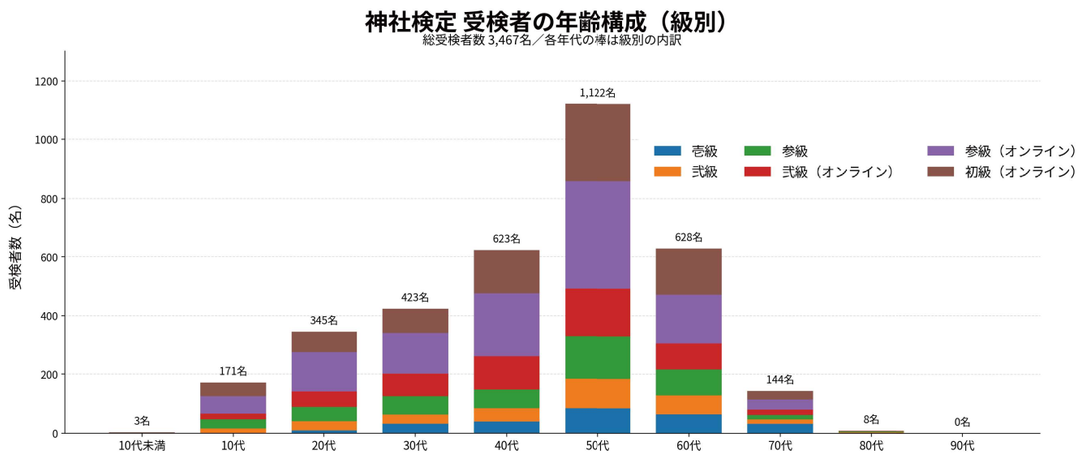
第 14 回神道文化検定（神社検定）受検者統計

□受検者数と合格率

	申込者数	受検者数	合格者数	合格率	平均点
壱級	263名	234名	143名	61.1%	71.8点 /100 点
弐級	304名	261名	171名	65.5%	73.5点 /100 点
参級	457名	413名	348名	84.3%	83.5点 /100 点
オンライン 弐級	531名	482名	332名	68.9%	76点 /100 点
オンライン 参級	1,116名	1,037名	896名	86.4%	85.7点 /100 点
オンライン 初級	796名	744名	625名	84%	42.2点 / 50 点

□年齢別

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	総計
壱級	1名	0名	10名	32名	39名	84名	64名	32名	1名	0名	263名
弐級	0名	16名	31名	31名	45名	100名	64名	15名	2名	0名	304名
参級	0名	31名	48名	62名	64名	146名	88名	15名	3名	0名	457名
弐級 オンライン	0名	19名	52名	76名	112名	162名	90名	18名	2名	0名	531名
参級 オンライン	0名	59名	133名	140名	216名	367名	166名	35名	0名	0名	1,116名
初級 オンライン	2名	46名	71名	82名	147名	263名	156名	29名	0名	0名	796名
	3名	171名	345名	423名	623名	1,122名	628名	144名	8名	0名	3,467名



□受検者数と合格者数（会場受検・都道府県別）　※受検会場別ではありません

都道府県	壱級			弐級			参級		
	申込者	受検者	合格者	申込者	受検者	合格者	申込者	受検者	合格者
北海道	6	5	3	7	6	4	10	7	5
青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩手県	0	0	0	4	3	1	6	5	4
宮城県	3	3	2	8	7	3	11	10	6
秋田県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山形県	3	3	2	1	1	1	3	3	3
福島県	1	1	0	1	1	1	3	3	3
茨城県	4	3	0	6	5	3	4	3	3
栃木県	3	3	2	2	2	1	8	8	3
群馬県	1	1	1	3	3	2	7	7	6
埼玉県	29	27	19	24	19	13	43	40	31
千葉県	17	14	7	22	18	14	33	27	24
東京都	58	52	32	77	62	38	86	73	62
神奈川県	21	19	11	23	20	14	36	33	29
新潟県	3	2	1	1	1	1	2	2	2
富山県	4	3	2	0	0	0	2	2	2
石川県	4	4	2	1	1	0	1	1	0
福井県	3	3	3	3	2	2	1	1	1
山梨県	2	2	0	2	2	2	1	1	1
長野県	2	2	1	6	5	3	3	1	0
岐阜県	2	2	2	2	1	0	1	1	1
静岡県	9	8	6	4	4	3	8	8	6
愛知県	15	15	8	17	15	8	36	35	29
三重県	6	5	4	6	6	4	19	17	16
滋賀県	1	1	1	4	4	3	3	3	2
京都府	7	5	2	10	10	7	10	10	9
大阪府	22	18	11	28	24	14	44	41	37
兵庫県	10	10	5	8	8	6	14	12	12
奈良県	3	3	2	0	0	0	1	1	1
和歌山県	1	1	1	0	0	0	1	1	1
鳥取県	1	1	0	0	0	0	0	0	0
島根県	0	0	0	2	2	1	3	3	3
岡山県	2	2	1	3	3	3	5	5	5
広島県	4	3	2	6	4	2	10	8	7
山口県	1	1	1	1	1	0	4	4	2
徳島県	1	1	1	0	0	0	1	1	1
香川県	0	0	0	4	4	3	8	8	7
愛媛県	1	1	0	1	1	1	4	4	4
高知県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福岡県	7	6	5	7	7	6	9	9	7
佐賀県	0	0	0	3	3	3	1	1	1
長崎県	1	0	0	1	1	1	1	1	1
熊本県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大分県	1	1	0	0	0	0	1	1	1
宮崎県	0	0	0	1	1	1	5	4	4
鹿児島県	3	3	3	4	3	1	6	6	4
沖縄県	1	0	0	1	1	1	2	2	2
総計	263	234	143	304	261	171	457	413	348

□受検者数と合格者数（オンライン受検・都道府県別）

都道府県	オンライン弐級			オンライン参級			オンライン初級		
	申込者	受検者	合格者	申込者	受検者	合格者	申込者	受検者	合格者
北海道	13	12	6	29	26	25	21	20	13
青森県	0	0	0	4	4	3	4	3	3
岩手県	1	1	1	6	6	4	7	6	3
宮城県	7	6	5	21	20	13	10	10	9
秋田県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山形県	1	1	0	3	3	3	8	8	7
福島県	4	3	1	7	5	4	8	6	5
茨城県	8	7	4	21	17	14	12	12	9
栃木県	8	7	5	13	12	11	11	11	10
群馬県	9	9	6	21	19	15	15	14	12
埼玉県	45	42	30	115	107	94	96	90	77
千葉県	37	34	26	62	58	48	36	35	28
東京都	125	113	80	239	218	191	158	146	130
神奈川県	48	43	31	107	102	88	71	69	60
新潟県	6	6	1	20	18	16	14	12	10
富山県	2	2	2	9	8	6	9	9	9
石川県	2	1	0	2	2	1	2	2	2
福井県	2	2	1	7	7	7	2	2	2
山梨県	0	0	0	3	2	2	3	2	1
長野県	8	8	3	14	14	10	10	10	9
岐阜県	9	9	5	10	8	8	6	5	5
静岡県	12	12	6	30	28	27	20	18	13
愛知県	27	25	17	51	49	45	31	27	25
三重県	11	10	7	27	26	25	13	11	8
滋賀県	5	4	2	10	9	9	3	3	2
京都府	15	15	11	26	25	23	17	17	16
大阪府	33	29	20	70	63	54	58	52	47
兵庫県	19	14	11	49	48	40	27	27	22
奈良県	6	5	5	6	6	6	10	10	9
和歌山県	4	3	2	9	8	5	4	4	3
鳥取県	1	1	1	2	2	2	1	1	0
島根県	0	0	0	2	2	1	3	3	3
岡山県	5	5	3	9	9	8	5	5	4
広島県	13	13	11	17	17	13	16	15	12
山口県	3	2	1	9	9	7	14	14	9
徳島県	0	0	0	6	5	4	3	3	3
香川県	4	4	1	6	5	4	3	3	0
愛媛県	4	4	3	8	7	7	7	6	6
高知県	0	0	0	3	3	3	3	2	1
福岡県	16	13	10	28	27	25	23	23	20
佐賀県	2	2	2	4	4	3	2	2	2
長崎県	0	0	0	1	1	1	4	4	3
熊本県	2	2	1	5	5	5	2	1	1
大分県	4	4	4	5	5	3	6	5	3
宮崎県	1	1	1	3	3	2	5	4	2
鹿児島県	7	6	5	9	7	4	8	7	3
沖縄県	2	2	1	8	8	7	5	5	4
総計	531	482	332	1,116	1,037	896	796	744	625

（2）セミナーの開催

神道及び日本文化への理解を深めることを目的として、神社、大学その他の関係機関と連携し、各地の神社における現地研修、専門家による講座、祭祀・伝統行事への参加等、多様な学習機会を不特定多数に提供した。また、神社検定合格者を対象とした研修の実施と一般を対象とした普及啓発活動にも取り組み、神道文化及び我が国の歴史・伝統文化への理解と関心の醸成を図つた。

◇京都・石清水八幡宮を学ぶ

伊勢の神宮に次ぐ第二の宗廟として篤い崇敬を集めてきた石清水八幡宮について、その由緒、信仰及び歴史への理解を深めることを目的として、現地セミナーを開催した。正式参拝・当財団理事長でもある田中恆清宮司による特別講話及び神職による境内案内を実施し、石清水八幡宮をより深く学ぶ機会を提供した。

日　時：　令和7年7月27日（日）9時30分～15時
会　場：　石清水八幡宮
参加者：　35名
内　容：　石清水八幡宮の由緒・歴史の解説、田中恆清宮司特別講話、正式参拝、神職による境内案内



◇奈良・談山神社「満月の夜の特別参拝」

飛鳥の東方、多武峰に鎮座する談山神社において、同社に受け継がれてきた信仰、祭祀及び祈りの文化への理解を深めることを目的として、夜間特別セミナーを開催した。浄闇に包まれた境内を月明かりと提灯の灯を頼りに巡り、正式参拝、神職による境内案内、談峯如意輪観音菩薩坐像の特別拝観等を実施した。また、明かりを落とした本殿において大祓詞を奏上し、雅楽演奏及び巫女による「浦安の舞」の奉納を拝観するなど、通常の参拝では得難い体験を通じて、談山神社の歴史と信仰について理解を深める機会とした。

日　時：　令和7年10月7日（火）17時～22時
会　場：　談山神社
参加者：　50名
内　容：　提灯を携へての境内散策、正式参拝、談峯如意輪観音菩薩坐像特別拝観、御神酒「談山」の酒蔵杜氏による講話、蹴鞠の解説、大祓詞奏上、雅楽演奏、「浦安の舞」奉納



◇第54回「初穂曳」への参加

神社検定合格者を対象として、神宮の神嘗祭に奉納する初穂を奉曳する第54回「初穂曳」への参加事業を実施した。

神社検定合格者50名が特別神領民として奉曳に参加し、初穂を奉納するとともに、御垣内参拝及び御神楽奉納を行つた。また、壱級合格者には神嘗祭「由貴夕大御饌」を奉拝する特別な機会を設け、神宮祭祀と稲作との深い結び付き、並びに神嘗祭が我が国の稲作文化及び精神文化に有する意義について、体験を通じて理解を深める機会とした。

日　時：　令和7年10月15日　10時～23時
会　場：　神宮
参加者：　50名
内　容：　初穂曳奉仕、初穂奉納、内宮御垣内参拝、御神楽奉納、神嘗祭「由貴夕大御饌」奉拝（壱級合格者限定）



◇神々のまほろばへ　―神社検定で学ぶ奈良の神社―

奈良県の首都圏における情報発信拠点である奈良まほろば館（東京都港区）において、奈良県内の神社の歴史及び文化を神社検定を通じて広く紹介する講座を開催した。神道に関する基礎知識をはじめ、神社検定公式テキストに掲載されている奈良県内の神社について、その由緒、歴史及び祭祀等を神社検定公式テキスト編集長が解説した。あわせて「奈良版ミニ神社検定」を実施し、問題への挑戦と解答解説を通じて、参加者が楽しみながら奈良の神道文化への理解と関心を深める機会とした。

また、同館1階において、公式テキストに掲載された奈良県内の神社を紹介する写真及び解説パネルを展示し、講座参加者以外の一般来館者に対しても広く普及啓発を図つた。

日　時：　令和8年1月10日（土）
会　場：　奈良まほろば館（東京都港区）
参加者：　50名
内　容：　奈良県内の神社の歴史・祭祀等の解説、「奈良版ミニ神社検定」の実施及び解答解説
　　パネル展示：　令和8年1月10日（土）～23日（金）



◇神社検定特別セミナーin沖縄「祈りのかたち」

沖縄に古くから受け継がれてきた信仰及び沖縄県内の神社の歴史と特色について理解を深めることを目的として、2日間にわたり特別セミナーを開催した。

沖縄県神社庁と県内神社の協力のもと、現地におけるフィールドワークを中心に、琉球開闢の神とされるアマミキヨへの信仰、自然崇拝を基盤とする御嶽信仰、琉球八社をはじめとする沖縄の神社の歴史等について学んだ。沖縄固有の風土と歴史の中で育まれてきた信仰と、本土とは異なる展開をみせた神社祭祀とを現地で学ぶことにより、沖縄における祈りの文化を多角的に理解する機会とした。

日　時：12月13日（土）「沖縄古来の信仰を学ぶ」
参加者：40名
内　容：琉球開闢の神アマミキヨにまつわる信仰や御嶽信仰について、関連する史跡及び聖地を巡るフィールドワークを実施した。各地に伝えられてきた信仰の形態や、ノロ及びユタが歴史的・社会的に担ってきた役割について学び、沖縄固有の信仰文化が現在までいかに継承されてきたかについて理解を深めた。
見学地：浜川御嶽、ヤハラヅカサ、受水走水、斎場御嶽、テダ御川、首里城

日　時：12月14日（日）「沖縄の神社のあり方と歴史を学ぶ」
参加者：40名
内　容：琉球王国時代から「琉球八社」として篤く崇敬されてきた沖縄の神社について、その成立と歴史的変遷を学ぶセミナーを開催した。波上宮、天久宮、普天満宮等を参拝し、神職による講話及び境内案内を通じて、琉球王府との関係、沖縄固有の信仰と神道との関わり、御嶽と神社との相違点及び共通点等について学び、沖縄における神社信仰の特色への理解を深めた。
見学地：波上宮正式参拝・境内案内・大山宮司講話、天久宮参拝、普天満宮正式参拝
境内案内、中村家住宅見学





◇神社検定受検対策講座及び動画配信

第14回神道文化検定（神社検定）の受検予定者を対象として、参級から壱級までの各級に対応した受検対策講座を開催した。過去の出題問題を中心として、各級の出題傾向、学習上の要点及び公式テキストの効果的な活用方法について、神社検定公式テキスト及び季刊誌『皇室』編集長の伊豆野誠氏が解説した。また、会場での講座に加え、同内容を動画により配信することにより、居住地域や時間的制約にかかわらず受講できる学習環境を整備し、受検者の学習機会の充実を図つた。

日　時：令和8年1月25日（日）13時～17時10分　　会場受講者：58名
会　場：公益財団法人日本文化興隆財団　　動画受講者：306名
講　師：伊豆野誠（季刊誌『皇室』編集長）



◇伊勢・皇學館大学で学ぶ「神道いろは」

神道及び日本文化について体系的かつ専門的に学ぶことを目的として、皇學館大学において2日間の特別セミナーを開催した。皇學館大学の教員による神道及び日本文化に関する講義を実施するとともに、神道博物館及び祭式教室等を見学した。専門的な講義と大学施設を活用した体験的な学習を組み合わせることにより、神道の歴史、信仰、祭祀及び有職故実等について、多角的に理解を深める機会とした。

日　時：令和8年2月7日（土）・8日（日）
会　場：皇學館大学
参加者：計100名
内　容：皇學館大学の紹介、神道博物館見学、祭式教室特別見学、学生食堂での昼食
皇學館大学出版書籍の特別販売等、
神道講座
〈2月7日〉
小林　郁 助教「中近世の伊勢信仰―資料に見るお伊勢参りの歴史―」
新田惠三 助教「描かれた神代の伝承―『天岩戸図』を読み解く―」
〈2月8日〉
田井健治 助教「神社の有職故実」
中山　郁 教授「神道の神観念と霊魂観」





◇埼玉県神社庁主催「神主さんと神社を学ぼう」への出展

神社検定及び神道文化を広く一般に周知することを目的として、埼玉県神社庁主催の「神主さんと神社を学ぼう」に神社検定ブースを出展した。

会場内において神社検定の紹介及び受検案内を行うとともに、一般来場者を対象として10問の問題に挑戦する「おためし神社検定」を実施した。600名が参加し、楽しみながら神社及び神道文化に関する基礎知識に触れる機会を提供することにより、神社検定の認知向上及び神道文化への関心の喚起を図つた。

主　催：埼玉県神社庁
日　時：令和8年3月29日（日）9時30分～16時
会　場：武蔵一宮氷川神社参道及び境内
参加者：600名（「おためし神社検定」受検者数）
内　容：神社検定の紹介・受検案内、「おためし神社検定」の実施。10問中7問以上の正解者に記念品を贈呈した。なお、会場では、埼玉県内の神社の御朱印を紹介する「埼玉の神社御朱印展」及び氷川神社参道における「氷川マルシェ」等も併催され、多くの一般来場者で賑わった。




◇見て、触れて学ぶ「神社のいろは」in 國學院大學祭式教室

國學院大學祭式教室において、神社祭祀及び有職故実に関する入門講座を開催した。神社の施設、調度品、祭器具、祭服等について、公式テキストによる学習だけでは得難い知識を、実物を見て、触れる体験を通じて学ぶ機会を提供した。手水、拝礼、修祓等の基本的な作法から、神職の装束、祭器具、神饌等に至るまで幅広く学ぶことにより、神社祭祀を支える伝統的な制度、作法及び有職故実について、参加者の具体的かつ実践的な理解の促進を図つた。

主　催：公益財団法人日本文化興隆財団
日　時：令和8年5月10日（土）・11日（日）13時～16時30分（2回開催）
会　場：國學院大學（東京都渋谷区東）
講　師：國學院大學神道文化学部准教授 星野光樹氏ほか
参加者：各回60名　計120名
内　容：〈作法編〉
1. 手水の作法　2. 拝礼作法・拍手　3. 修祓　4. 本殿の構造　5. 神饌・伝供等
〈有職故実編〉
1. 神職の持ち物及び履物　2. 神職の装束（冠・笏・浅沓等）3. 巫女装束等



◇「御木曳」行事への参加

神社検定受検者を対象として、神宮式年遷宮に係る「御木曳」行事への参加事業を実施した。参加者は特別神領民として御用材を神域へと曳き入れる奉曳に参加し、4日間で延べ113名が奉仕した。また、二見興玉神社への浜参宮、神宮での御垣内参拝及び御神楽奉納等を行い、式年遷宮に受け継がれてきた伝統について体験的に理解を深める機会となった。

日　時：令和8年5月14日・15日、6月4日・5日
会　場：二見興玉神社、神宮
参加者：計113名
内　容：〈1日目〉
二見興玉神社浜参宮・正式参拝、内宮御垣内参拝、御神楽奉納
〈2日目〉
御木曳奉曳、外宮御垣内参拝




□公式テキスト発行部数

公式テキスト	発行部数	電子書籍
神社のいろは	68,000	3,564
神話のおへそ	35,000	1,245
神社のいろは 続	25,000	1,488
遷宮のつぼ	18,000	678
神社のいろは要語集宗教編	6,600	
日本の祭り	9,000	
神社のいろは要語集祭祀編	5,300	
万葉集と神様	7,000	

公式テキスト	発行部数	電子書籍
神話のおへそ『古語拾遺』編	9,500	
神話のおへそ『日本書紀』編	11,000	
伊勢神宮と、遷宮のかたち	6,500	301
マンガならわかる！『日本書紀』	9,000	3,523
マンガ神社のいろは	12,500	5,713
マンガならわかる！『古事記』	9,500	966
令和のご大礼 完全版	3,500	
神社検定問題と解説	49,600	
計	285,000	17,478

令和7年度　公益目的事業１　　日本の伝統精神と文化を伝える事業

4 皇室敬慕に関する事業

我が国の歴史、伝統及び文化の継承と振興を図るため、皇室に対する国民の正しい理解を促進し、敬慕の念を深めることを目的として、皇室敬慕に関する事業を実施した。

令和7年度は、令和5年から当財団が継続して実施している新年一般参賀及び天皇誕生日一般参賀に際し、皇居参賀奉祝委員会加盟団体の協力の下、一般参賀に参加する国民に国旗小旗を無償で配布する事業を実施した。本事業は、一般参賀において国旗小旗を手に奉祝する環境を整へ、参賀者一人ひとりが新年及び天皇誕生日を寿ぎ、その祝賀の意を天皇・皇后両陛下をはじめ皇族方に直接お伝えする機会を提供するものである。これを通じて、皇室に対する敬慕の念を国民が共にし、皇室と国民との深い結び付きについて理解を深めることを目的としている。

特に、当財団が継承した令和5年以降、その趣旨に賛同する全国の国民から寄せられる寄附は年々増加しており、国旗小旗の奉製及び配布を広く国民の篤志によつて支える基盤が着実に形成されてきた。これは、単に参賀者へ小旗を配布する事業にとどまらず、皇室を敬慕し、国民自らの手によつて奉祝の場を支え、その思いを次代へ受け継いでいこうとする国民運動へと発展してきたことを示す大きな成果である。

当財団では、事業継承時から、本事業を一部の団体のみが担う活動ではなく、広く国民がその趣旨を共有し、寄附や奉仕を通じて参画する「国民運動」として発展させることを目標としてきものであり、その理念は着実に社会に浸透しつつあり、国民一人ひとりの篤志によつて皇室への奉祝の輪を支えるという、本事業が目指してきた国民運動化は大きく進展したものと評価している。

今後も皇室と国民との絆を次代へつなぐ国民的な奉祝運動として一層の定着と発展を図り、公益性及び継続性を重んじて本事業を推進する。



令和8年新年

◇皇居参賀奉祝事業（皇居一般参賀）
主催：公益財団法人日本文化興隆財団・皇居参賀奉祝委員会（12団体）

皇居参賀奉祝委員会加盟団体

東京都神社スカウト協議会・日本会議東京本部・日本会議中央本部・公益財団法人モラロジー道徳教育財団・不二歌道会・谷口雅春先生を学ぶ会・公益財団法人教育者連盟・一般社団法人黎明教育者連盟・認定NPO法人まほろば教育事業団・日本植生株式会社・日本青年協議会・徳島富田幼稚園

（1）新年一般参賀
日　　時：令和8年1月2日(祝・金)6時～16時
場　　所：皇居桜田門・馬場先門・和田倉門の参入口と坂下門・桔梗門・大手門乾門の退出口
参賀者数：60,140名
配 布 数：56,994本（配布率95%）
助成者数：115名（ボランティア）

（2）天皇誕生日一般参賀
日　　時：令和8年2月23日(祝・月)6時～13時
場　　所：皇居桜田門・馬場先門・和田倉門の参入口と坂下門・桔梗門・大手門乾門の退出口
参賀者数：26,973
配 布 数：23,946本（配布率89%）
助成者数：238名（ボランティア）



新年一般参賀



天皇誕生日一般参賀

これまでの活動成果		配布本数（配布率）	参賀者数
令和5年	新年	6,500本(89%)	7,312名(コロナにより抽選)
	天皇誕生日	3,700本(93%)	3,963名(コロナにより抽選)
令和6年	新年	能登半島地震により中止	
	天皇誕生日	14,055本(99%)	14,240名
令和7年	新年	49,400本(81%)	60,690名
	天皇誕生日	17,628本(97%)	18,240名
令和8年	新年	56,994本(95%)	60,140名
	天皇誕生日	23,946本(89%)	26,973名
		172,223本(90%)	191,558名

令和7年度　公益目的事業２　　国旗小旗の無償頒布を通した国旗啓発事業

国旗小旗の無償頒布を通した国旗啓発事業

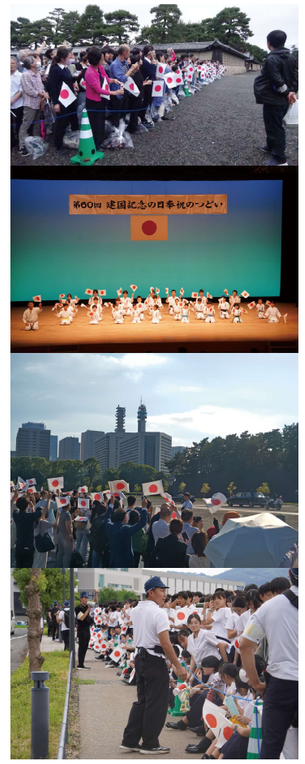
我が国の歴史、伝統及び文化への理解を深めるとともに、国旗に対する正しい理解と親しみを広く国民の間に醸成することを目的として、国旗小旗の無償頒布を通じた国旗啓発事業を継続実施した。

本事業は、当財団の公益目的事業の一つとして継続的に実施しているものであり、毎年、全国各地の敬神婦人会をはじめとする多くのボランティアの協力により、約6万本の国旗小旗を奉製いただいている。奉製された国旗小旗については、全国の神社、関係団体、地域行事等において広く一般国民へ無償で頒布するため、希望団体からの申請に基づき助成を行った。

助成に当たっては、国旗啓発という本事業の趣旨に沿った適正かつ効果的な頒布が行われるよう、各申請団体に対して申請書の提出を求め、使用目的、頒布予定数等を確認した上で助成本数を決定している。また、事業実施後には配布報告書の提出を求め、頒布実績を確認することにより、公益事業として適切な運営及び実績把握に努めた。

令和7年度は、45件、計82,600本の助成申請を受理し、このうち60,600本の国旗小旗を助成した。全国各地の祭典、奉祝行事、地域行事その他多くの機会を通じて国民の手に国旗小旗が届けられることにより、国旗を身近に掲げ、親しむ機会の創出につながっている。

本事業は、全国のボランティアによる国旗小旗の奉製から、各地域の団体を通じた無償頒布まで、多くの国民の協力と参画によって支えられていることに大きな特色がある。今後も、こうした全国的な協力の輪を大切にしながら、国旗小旗の頒布を通じ、我が国の象徴である国旗への理解と敬意を深め、国旗を大切にする意識の普及啓発に努めていく。



《頒布実績数》
令和元年度：申請受理件数 71件 /申請本数 75,200本 /助成本数 49,530本
令和２年度：申請受理件数 23件 /申請本数 11,550本 /助成本数 5,450本
令和３年度：申請受理件数 28件 /申請本数 60,050本 /助成本数 54,986本
令和４年度：申請受理件数 29件 /申請本数 10,400本 /助成本数 7,590本
令和５年度：申請受理件数 42件 /申請本数 64,180本 /助成本数 59,003本
令和６年度：申請受理件数 50件 /申請本数126,800本 /助成本数 111,700本
令和７年度：申請受理件数 45件 /申請本数 82,600本 /助成本数 60,600本

令和7年度　公益目的事業３　　国民の健全育成事業

（1）硫黄島訪島事業（火山噴火のため中止）

多くの尊い生命が失われた硫黄島を訪れ、戦歿者の慰霊及び顕彰を行い、御霊に対して感謝と追悼の誠を捧げることを目的として、同事業を継続実施している。

本事業は、硫黄島における戦歿者の御霊を慰めるとともに、戦争の歴史と記憶を風化させることなく後世へ継承し、参加者が生命の尊厳と平和の尊さについて改めて考え、理解を深める機会を提供するものであり、当財団が取り組む慰霊と次世代への歴史継承に係る重要な公益事業の一つとして実施している。

令和7年度においても同事業の実施に向け準備を進めていたが、硫黄島及びその周辺海域において群発地震並びに火山活動の活発化が確認され、現地の状況及び自衛隊からの要請等を総合的に勘案した結果、やむを得ず訪島を中止した。

また、訪島が適わなかった年度においても、本事業の目的である戦歿者の慰霊と顕彰及びその記憶の次世代への継承を絶やすことのないよう、これまで本事業に参加された戦歿者御遺族への取材及び記録活動を継続し、とりわけ戦争を直接体験していない孫世代等が、硫黄島で亡くなられた方々や家族の歴史にどのように向き合い、その思いを受け継いでいるのかを取材を続け、当財団ホームページ「ぶんぶくの森」において「孫世代の遺族たちのそれぞれの思い」と題する連載を広く発信している。

ホームページ「ぶんぶくの森」
「孫世代の遺族たちのそれぞれの思い」



写真は令和6年実施時のもの

令和7年度　公益目的事業３　　国民の健全育成事業

(2) 建国メモリアル・ザ・マーチングコンテスト後援

建国記念の日の意義について広く国民の理解を深めるとともに、我が国の歴史、伝統及び文化に対する関心を醸成することを目的として、「建国メモリアル・ザ・マーチングコンテスト」に対する後援事業を実施した。

当財団は、継続して後援団体として本事業に参画し、審査員及び職員を派遣するとともに、事業経費の一部を助成した。これにより、青少年をはじめとする参加者が、音楽及び演奏活動を通じて建国記念の日の意義に触れ、我が国の歴史と文化への理解を深める機会の充実に寄与した。

日　程：令和7年2月11日建国記念の日
時　間：9時30分～14時
場　所：表参道～明治神宮
主　催：日本の建国を祝う会
後　援：公益財団法人日本文化興隆財団
協　力：商店街振興組合原宿表参道欅会
　　東京都大学吹奏楽連盟

【参加団体】
東京都神社スカウト協議会・きよし幼稚園・CHIBAフォームバトン・相模原フォームバトン・東海大学・専修大学・國學院大學・早稲田大学・立正大学・駒澤大学・国士舘大学など



令和7年度　収益事業　　物品頒布事業

収益事業 1 物品頒布事業

日本文化及び神道文化の普及啓発並びに当財団が実施する公益目的事業の推進に資することを目的として、関連書籍、教材、記念品その他各種物品の企画及び頒布を行った。

令和7年度は、原材料費、資材費、物流費等の継続的な上昇に伴い、各種取扱品について順次価格の見直しを余儀なくされた。こうした物価上昇の影響により、購入者の価格に対する慎重な傾向がみられたほか、神社・団体等における記念品としての採用件数も減少し、事業収益は前年度を下回る結果となった。

また、新規商品の企画・開発についても、製造原価の上昇により、品質を維持しつつ適正な頒布価格を設定することが難しくなっており、新たな商品の導入について慎重な検討を要する状況が続いた。

一方、神道文化検定（神社検定）の公式テキストをはじめとする当財団の公益事業と直接関連する書籍・教材については、引き続き安定した需要が認められた。また、神事等に用いられる真榊についても例年と同様に堅調な需要があったものの、天候不順や長期間にわたる少雨等の影響により、一時的に生育及び供給が不安定となり、出荷に遅延が生じるなど、自然環境の変化による影響もみられた。

このように、物価高騰による仕入価格の上昇、記念品需要の減少、商品の安定供給等が課題となっており、従来と同様の商品構成による事業展開には一定の制約が生じている。今後は、収益性のみを追求するのではなく、公益財団法人としての使命を踏まえ、日本文化及び神道文化への理解と関心を深めることのできる書籍、教材、記念品等について、その公益的意義と需要を十分に見極めながら、企画・開発及び頒布に努める。

併せて、既存商品の構成や価格設定、仕入・製造方法等について継続的な見直しを行うとともに、神道文化検定をはじめとする当財団の各種公益事業との連携を一層図り、事業参加者や一般の方々に日本文化に親しむ機会を提供できる商品の充実を進める。今後も、社会経済情勢や需要の変化を的確に捉えながら、安定的かつ持続可能な事業運営を図り、物品頒布事業を通じて当財団の公益目的事業の推進に寄与していく。

令和7年度　収益事業　　テナント及び貸会議室の施設運営

収益事業 2 テナント及び貸会議室の施設運営

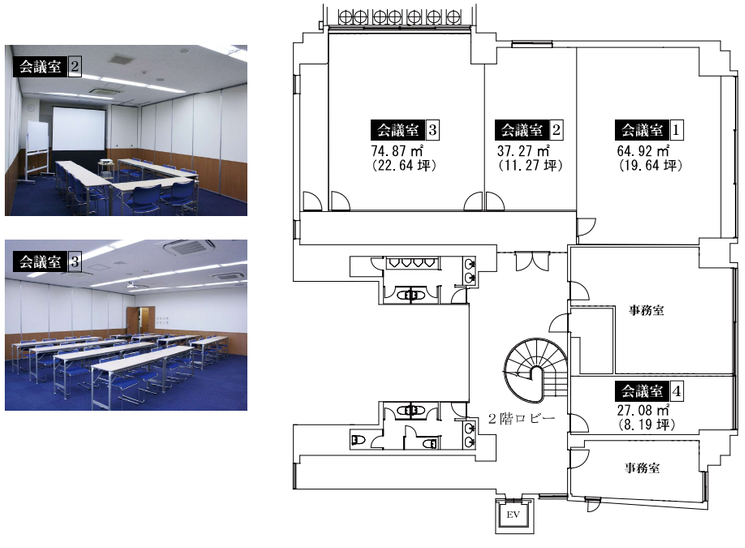
当財団が保有する会議室について、近隣企業をはじめとする各種団体等への貸出しを行い、保有資産の有効活用を図るとともに、公益目的事業を安定的に推進するための収益確保に努めた。貸会議室の利用については、近隣企業を中心に継続的な利用が定着するとともに、利用者からの評価や認知度の向上を背景として、新規利用も着実に広がっている。

令和7年度の利用実績は、506件、延べ3,203時間となり、前年度の496件、2,940時間をともに上回った。また、貸会議室運営による収益は、この4年間継続して増加しており、令和7年度においても前年度比約4％の増収となった。物価上昇や社会経済情勢の変化等の影響を受ける収益事業もある中、保有不動産を活用した貸会議室事業は、比較的安定した収益を確保できる事業として、その重要性を一層増している。物品頒布事業の収益規模には及ばないものの、貸会議室から得られる安定的かつ継続的な収益は、当財団が実施する公益目的事業を財政面から支える重要な基盤の一つとなっている。

今後も、利用者の利便性及び満足度の向上に努めるとともに、近隣企業及び各種団体への周知を図り、既存利用者の継続利用と新規利用者の開拓を進めることにより、安定的な収益の確保及び保有資産の有効活用に努めていく。

(1)テナント事業
利用状況と入居団体
101号室　物品発送室として使用
201号室　財団事務局
202号室　貸会議室
203号室　季刊誌『皇室』編集室
204号室　一般社団法人日本国際文化協会
205号室　公益社団法人全日本仏教婦人連盟
206号室　有限会社村上

(2)貸会議室の施設運営
インターネットからの予約が９割を占め、利用件数は年々増加し、令和7年度も過去最大になった。
令和4年度　利用件数：290件/利用時間：2,202時間
令和5年度　利用件数：378件/利用時間：2,492時間
令和6年度　利用件数：496件/利用時間：2,940時間
令和7年度　利用件数：506件/利用時間：3,203時間








会議室 1 ＋ 会議室 2 ＋ 会議室 3


会議室 1 ＋ 会議室 2


会議室 2 ＋ 会議室 3

理事（7名）　　令和8年8月25日現在

役　名	氏　名	役職名
理事長	田中恆清	(宗)神社本廳総長
副理事長	吉川通泰	(宗)神社本廳副総長
理　事	打田文博	(公財)昭和聖徳記念財団評議員
理　事	田尾憲男	(公財)交通道徳協会評議員
理　事	内田 智	(公財)生長の家社会事業団理事
理　事	橋本寿史	(株)フジテレビジョン報道局解説員
理　事	佐久間宏和	(公財)日本文化興隆財団事務局長

監事（2名）

役　名	氏　名	役職名
監　事	南部利文	(宗)神社本廳監事
監　事	小關笑子（小関微笑子）	(一社)日本国際文化協会常務理事

評議員（6名）

役　名	氏　名	役　職　名
評議員	間島誉史秀	(宗)神社本廳常務理事
評議員	小佐野正史	(宗)神社本廳常務理事
評議員	日比敏明	(宗)神宮財務部長
評議員	茂木貞純	古宮神社宮司
評議員	加藤健司	民俗芸能学会理事
評議員	松本久史	(学)國學院大學教授

顧問（5名）

役　名	氏　名	役職名
顧　問	鷹司尚武	(宗)神社本廳統理
顧　問	久邇朝尊	(宗)神宮大宮司
顧　問	小林 健	全国神社総代会会長
顧　問	佐柳正三	(学)國學院大學理事長
顧　問	圓藤恭久	(学)皇學館理事長

理事会	◇理事会 日　　時　令和7年8月26日（火） 15時30分～16時32分 会　　場　神社本庁地下一階会議室 出席理事　5名 田中恆清・吉川通泰・内田　智 齊藤有子・橋本寿史 出席監事　2名 南部利文・小關笑子 【報告事項】 1. 前理事会以降の職務執行状況について 2. 季刊誌『皇室』について 3. その他 【審議事項】 1. 令和6年度事業報告について 2. 令和6年度決算について 3. 任期満了に伴う理事の改選について 4. 参与の異動について 5. 定時評議員会開催について 6. その他 ◇臨時理事会（書面決議） 理事会の決議があったものとみなされた日 令和7年10月1日（水） 【審議事項】 1. 理事田中恆清を代表理事に選任し、理事長とする。 2. 理事吉川通泰を業務執行理事に選任し、副理事長とする。	◇理事会 日　　時　令和8年6月8日（月） 13時30分 ～ 14時55分 会　　場　日本文化興隆財団 会議室 出席理事　6名 田中恆清・吉川通泰 内田 智・齊藤有子・橋本寿史 佐久間宏和 出席監事　2名 南部利文・小關笑子 【報告事項】 1. 前理事会以降の職務執行状況について 2. 理事の異動について 3. 神道文化検定（神社検定）について 4. 季刊誌『皇室』について 5. 公益法人会計基準改正について 6. その他 【審議事項】 1. 令和8年度事業計画（案）について 2. 令和8年度予算（案）について 3. 顧問・参与の異動について 4. 臨時評議員会（書面）の開催について 5. その他
評議員会	◇定時評議員会 日　　時　令和7年9月22日（月） 13時30分～14時29分 会　　場　神社本庁会議室 出席評議員　5名 間島誉史秀・小佐野正史 日比敏明・茂木貞純・加藤健司 出席理事　4名 田中恆清・吉川通泰・橋本寿史 齊藤有子 出席監事　1名 南部利文 【報告事項】 1. 季刊誌『皇室』について 2. その他 【審議事項】 1. 令和6年度事業報告について 2. 令和6年度決算について 3. 任期満了に伴う理事の改選について	◇臨時評議員会（書面決議） 評議員会の決議があったものとみなされた日 令和8年6月30日 【審議事項】 1. 理事の異動について （理事退任者　齋藤有子）

監事会	◇監事会 日　　時　令和7年8月26日（月） 14時05分～15時03分 会　　場　神社本庁三階会議室 出席監事　2名 南部利文・小關笑子 出席役員　2名 田中恆清・吉川通泰 1. 予備監査報告 2. 令和6年度事業報告及び決算報告 3. 諸帳簿・伝票等照合 4. 監査報告書署名	◇監事会 日　　時　令和8年2月24日（火） 15時17分　～　15時53分 会　　場　神社本庁三階会議室 出席監事　2名 南部利文・小關笑子 出席役員　2名 田中恆清・吉川通泰 佐久間宏和 1. 予備監査報告 2. 令和7年度中間事業報告及び中間決算報告 3. 諸帳簿・伝票等照合 4. 監査報告書署名

法人の運営体制の充実を図るための取組

公益財団法人日本文化興隆財団

（1）日常的な業務管理及び情報共有
日常の業務運営については、事業担当者間で必要な情報を共有するとともに、重要な案件については理事長、業務執行理事その他関係者への報告及び確認を行うなど、適正な業務執行に必要な体制を確保している。
また、事業の進捗状況や予算執行状況についても適宜確認を行い、必要な場合には速やかに対応できるよう努めている。
（2）個人情報及び重要情報の適切な管理
個人情報及び法人が保有する重要情報については、その重要性を十分に認識し、情報機器及びデータの適切な管理、アクセス権限の設定等を通じて、情報セキュリティ体制の維持・向上を図っている。
併せて、個人情報及び重要情報の取扱いについて役職員間で認識を共有し、情報漏えいその他の事故を未然に防止するよう努めている。
（3）事業実施上のリスク管理
公益目的事業の実施に当たっては、参加者の安全確保、個人情報の取扱い、事業収支の管理その他、それぞれの事業の性質に応じた課題及びリスクについて事前に確認し、円滑かつ安全な事業運営に努めている。
事業実施中に課題が生じた場合についても、関係者間で速やかに情報共有を行い、適切な対応を図ることとしている。
（4）情報公開及び社会への説明
公益法人としての透明性を高めるため、ホームページ等を活用し、法人概要、事業内容、各種活動の実施状況等について積極的な情報発信を行っている。
当財団が実施する公益目的事業の目的及び成果を分かりやすく社会に示すことは、法人の活動に対する理解及び信頼を得る上でも重要であることから、今後も適切かつ積極的な情報公開に努めていく。

令和７年度事業報告　附属明細書
令和７年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第３項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和８年８月 25 日
公益財団法人日本文化興隆財団

https://nihonbunka.or.jp

なにが出てくる？　にっぽんの玉手箱
ぶんぶくの森
The Forest of Happiness

Webならではの「皇室」の情報も満載

新ホームページが開設！
過去に特集した貴重な記事を気軽に読める！
すべてが再編集されて読みやすい。
その他、「写真で見る皇室のご近況～宮内庁の発表写真より」
「皇室Q&A」「お伊勢さまの御神木がやってきた！」など盛りだくさん。

『皇室』誌のバックナンバーの
購入もこちらで！



連載『宮中 季節のお料理』より
上皇・上皇后両陛下のご成婚60年を記念し、宮内庁監修のもと出版された『天皇・皇后両陛下ご成婚60年記念　宮中 季節のお料理』。同書より、宮中に伝わる四季折々のお料理や宮中行事に供されるお料理をダイジェストで紹介。



連載 お能の扉、開けといたよ
presented by 月イチ能楽講座
関西の若手能楽師のホープたちが主宰する「月イチ能楽講座」は、能楽を親しみやすく伝え、「楽しい！わかりやすい！」と評判。彼らが綴る、お能の世界の扉をぐぐっと開いてくれる連載。



連載 ニッポン超絶技巧
──職人さん探訪
和紙に織物、陶磁器、刃物など、日本が世界に誇る「匠の技」。長い歴史の中で磨かれてきた職人技を、職人さんへのインタビューで紹介します。第2回は左官の匠が登場しています。



『皇室』バックナンバーより
宮中晩餐会や園遊会、神前結婚式の歴史、旧御用邸ご紹介……、季刊誌『皇室』が約30年にわたって掲載してきた数多くの読み物から、選りすぐりの記事を新たに編集してお届けしています。


「おばさん」と呼ばれたとき
おばさんって呼ばれたくない
おばさんでいいじゃない
おばさんでいいじゃない
おばさんでいいじゃ



日本文化

公益財団法人　日本文化興隆財団

https//www.nihonbunka.or.jp/